

教育委員Essay
シリーズ
第1回

『わが家の朝ごはん』
大分県教育委員長 林浩昭

このコーナーでは、6人の大分県教育委員のEssayを掲載します。教育委員は、県議会の同意を得て知事が任命します。教育委員6人の会議で、県の教育行政の重要事項や基本方針等を決定します。

私の1日は、家族の誰よりも早く、4時には始まります。そのため、わが家の朝ごはんの係は、私が受け持つことになっています。7年前に神奈川県から国東に戻り米やシイタケの生産を行う生活を始めてからもずっと、おいしい朝ごはんを作り2人の子どもと妻に食べてもらう喜びは、いつも同じです。夏が近づくと、高校に通う長男の食が進まなくなるのが悩みの種で、朝ごはんの工夫が必要になります。味噌汁の具やダシを変えたり、シイタケとベーコン入りの野菜スープにしてみました。食べる様子を観察しながら、朝食を進化させていきたいと毎日思うのです。

しかし、誰よりも早く寝てしまう私にとって、夜の家事は苦痛以外の何者でもありません。6月の初め妻が東京へ里帰りした時のこと、夕食を作り3人で食べ、食器を洗い終えた私は、洗濯機のスイッチを入れた所で力尽きて寝てしまいました。おそらく子どもたちはその後も宿題をしたり(おそらく)、テレビやインターネットを見たりと、だれにも邪魔されない夜を楽しんだはず。翌朝4時に目が覚めた私は、しっかりと洗濯物が干されていることに気が付きました。子どもたちも妻がいなくても自覚し、家事の一部を自発的に分担してくれたのです。家族が行うさまざまな活動をその構成員が補完し、揺るぎないものとして家庭を運営していくことができると確信できたことは、私にとってとてもうれしい出来事でした。

人が社会を形成し生活していくうえで、さまざまな危機管理が必要なことはいまでもありません。今までに経験したこともないような危機が突然降りかかったり、解決不可能に思える問題を与えられたりすることもあるでし



林委員長 略歴
昭和60年 7月 東京大学農学部助手
平成7年 1月 東京大学農学部助教授
平成15年12月 同 退職
平成17年12月 くにさき農業協同組合 代表理事事務
平成18年 9月 大分県教育委員会委員
平成20年 4月 大分県立農業大学校校長
平成21年 7月 大分県教育委員会委員長

よう。そのような時に、自分で考え行動していく能力は、家庭や学校のような小さな集団での普通の生活の中で、ひとつひとつ繰り返しながら、時にはぶつかり合いながら、習得していくものではないでしょうか。そして、そのようなことが許される根底に流れているものは、ひとりの人間の尊厳を互いに認め合うというごく基本的な考え方なのではないかと改めて思うのです。

朝ごはんを作りながら、家族のこと、仕事のことなど、いろいろなことを考えながら今日も1日が始まります。



学校、地域、家庭と三者で進める協育の取組みを紹介 ①

きょういく
支え隊



みなさん、「協育」という言葉、聞いたことがありますか？

教育ではなく、「今日、行く」でもなく、「協育」。

これは、子どもたちの勉強やスポーツ、その他のいろいろな体験活動を学校だけではなく、家庭や地域と三者が手を携えて支えていくことを意味します。

教育も食事と同様、バランスが大切！

家庭や地域、学校という三者がバランスよく協力することにより、健やかな子どもに成長します。

大分県教育委員会でも、この「協育」の大切さを認識し、数年前から「協育」に取り組む方々を応援しています。

そこで、「教育だよりおおいた」ではシリーズで、教育を支える人々を取り上げ、その活動を紹介します。

今回は、シリーズの第一弾として日田市立静修小学校での取組みを紹介します。



静修小学校：巣箱づくりの様子

去る6月15日(火)、静修小学校(全校児童68名)では、子どもたちが地域のボランティア8名の方から指導を受けながら鳥の巣箱作りチャレンジしました。

なぜ、鳥の巣箱づくりをしたのでしょうか。それには、理由があるのです。実は、静修小学校は今年度で閉校します。

閉校して子ども達のにぎやかな声が聞こえなくなっても、「みんなが寂しい思いをしなくてすむよう、鳥たちが集まる場所をつくりたい！」そんな思いを受けて、今回の巣箱づくりが実現したのです。

巣箱作りは、各学年を8つのグループに分けて行われました。

ボランティアの方の丁寧な指導のもと、1年生から6年生までが一つのグループの中でお互いに助け合い、1班2個ずつ合計16個の鳥の巣箱を完

成させました。今回参加したボランティアの方に、お話を聞いてみると「子ども達と触れ合えて、本当に楽しかった」とか「子どもと接して若返った気がする」とか「真剣に取り組む子ども姿に感動した」というご意見がありました。

まさに子どもは、元気の源！

また、子ども達の感想を聞いてみると、「ボランティアの人に教えてもらったので上手に釘が打てたよ！」(2年生)とか「ボランティアの人にほめてもらったのが、うれしかった」(3年生)、「貴重な体験ができたのは、ボランティアのみなさんのおかげです」(6年生)といったものがありました。

子どもも大人もそれぞれを認め合い、一つの作業をすることによって心と心の交流ができたことが、静修小学校の取り組みの一番の成果だったのではないのでしょうか。

今回は、子ども達と地域の方とのふれあいで、すてきな協育が生まれたようです。

同様の取り組みは、現在県内各地で行われています。

今年度は4回シリーズで、県内各地の取り組みを紹介します。